

埋伏抜歯

Piezosurgery® の埋伏歯への応用

東京都羽村市開業：福留歯科医院 福留 淳一

このレポートをお読みの方の中には、「私はインプラント治療をしないから Piezosurgery® は必要ない。」と思われる方が多いのではないだろうか。とすればこの考え方はとてももったいないと言えよう。

こう考えられている先生方は、Piezosurgery® はインプラント治療の補助器具であると認識されていると思われる。確かにそういった使用法も多数ある。しかしこの思い込みを取り払い一般診療に使用されると先生方ご自身、そしてなにより先生方の患者の方々が大きな恩恵を得ることと確信する。よってその一例を報告したい。

私は Piezosurgery® を臨床で使い始めて8年になる。この経験の中で、特に抜歯時での使用がとても効果的であると実感している。

当院では抜歯の中でも、残根（図1）や埋伏過剰歯（図2）、埋伏知歯（図3）での使用頻度が高い。使用するチップは Ex1、Ex2 が中心になる。通常のヘーベルがかかりにくい場所でもとても弱い力を加えるだけで歯根膜部を細く削除し断裂させていく能力が高い。私が抜歯時に推奨する圧力は 200 g 程度である。速く効果を得ようと強い力を加えると、効果的な振動数が得られずかえって切削能力が低下するからである。

本レポートでは、水平埋伏知歯（図3、4）における Piezosurgery® の使用例を報告する。

使用手順は通常通り浸潤麻酔を行い歯肉弁の剥離を行う。この症例のように骨埋伏量が大きい場合は OP1、OP3、OT2、OT7 などのチップをボーンモード、パワー1 で使い必要最小限の骨削除、歯冠露出を行う。図5は OP3 を使用している様子である。タービンや5倍速コントラなどの回転切削器具と違い、軟組織の傷害を気にすることなく削除量、削除幅、削除位置の微細なコントロールが容易に行えることが Piezosurgery® の大きな利点である。

次いで歯牙と骨の間に Ex1、Ex2 のチップをあてがい軽く押し当てる（図6）。しばらくするとチップが歯牙と骨の間にずっと入り込んでいく。この縦方向の動作を場所をずらしながら行い、ついで横方向に静かにチップを動かし形成した縦方向の切削部分をつないでいくようにすると効果的であると筆者は考えている。Ex1、Ex2 のチップは、幅も厚みも薄いのでヘーベルがかかりにくい場所でも容易に適用できることも大きな利点である。

この作業後必要に応じてヘーベルをかけ軽く脱臼させておくと後の作業が楽になる場合が多いようである。この際くれぐれも 47 番にダメージを与えないように注意を払う。露出させた歯冠の干渉部分をエアタービンや5倍速コントラで一部切断する（図7）。次いで EX1 で切断を完了し（図8）、歯冠部を除去する（図9）。この症例は歯根先端が大きく湾曲しているので EH1 を用い近親心根と遠心根を分割し（図10）、脱臼除去し（図11）。抜歯を完了させる（図12）。この作業は事前準備を行っているので非常に簡単である。この際、必要に応じて骨のトリミング等を Piezosurgery® で行い縫合し（図13）、術を終了する。図14は抜歯した歯根である。

このように Piezosurgery® は回転切削器具に比べはるかに精密に、低侵襲に骨の切除、切削が容易に行えるすぐれた器具である。またこの際、タービン等と違い軟組織を傷つける恐れがほとんどない。このような優れた器具をインプラント治療のみに使うのは大変もったいない。まだ導入されていない先生方は、早く導入しこのような抜歯など一般治療に Piezosurgery® を積極的に使用し患者満足度を上げられることを強く勧めたい。

